

- よる処理, 1972年電気学会全国大会講演論文集 13, 940~941.
- 9) 竹内利雄 (他) 1967: 雷活動の予測について, 天気 14, 22~24.
- 10) 中谷字吉郎 1939: 雷, 岩波新書 159~195.
- 11) 中島暢太郎 1963: 気象レーダの雷雨予報への適用, 電気雑誌 OHM 9, 48~49.
- 12) 畠山久尚 1970: 雷の科学, 河出書房新社
- 13) 藤高周平 (他) 1969: 雷撃電流と雷しやへの基本問題, 電気学会雑誌 Vol. 89-11, No. 974, 2019~2028.
- 14) 孫野長治 1969: 雲と雷の科学, 日本放送出版協会.
- 15) 正野重方 1969: 気象学総論, 地人書館 269~279.
- 16) 宮崎忠臣 1969: レーダによる雷雲の発生・移動・消滅について, 1969年電気学会東海支部連合大会講演論文集 3p-C-2, 54.
- 17) 宮崎忠臣 (他) 1970: 等雨量線装置による雷雲の発生・移動・消滅について, 1970年電気4学会東海支部連合大会講演論文集 19p~B-1, 43.
- 18) 宮崎忠臣 (他) 1971: 栃木県地方における雷雲の移動径路と地形との関連性, 1971年電気4学会東海支部連合大会講演論文集 14P-E-1, 86.
- 19) 宮崎忠臣 (他) 1971: 空電信号頻度とレーダエコーレベルとの関係について, 同上 14P-E-2, 87.
- 20) 宮崎忠臣 (他) 1972: レーダによる雷雲雲頂の観測, 1972年電気学会全国大会講演論文集 13, 944~945.
- 21) 宮崎忠臣 (他) 1972: 襲雷地付近の気象状況とレーダエコーの同時照合, 同上 13, 946~947.
- 22) 宮崎忠臣 (他) 1972: レーダによる栃木県地方の雷雲観測とその電算機処理, 日本気象学会1972年度春季大会講演予稿集 21, 331.

## 第16期・第17期 新旧理事監事合同会議議事録

日時 昭和47年7月24日(月) 15.00~17.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 伊藤, 磯野, 大井, \*大田, 神山, 川村, °河村, 岸保, 北川, \*木村, °窪田, 小平, °小林, 駒林, °佐々木, \*関口, \*関原, \*須田, \*高橋, °二宮, 孫野, °丸山, 山本, 各理事  
木村, 藤田, 各新監事  
\*印は第16期限り退任理事, °印は新任理事, その他は, 重任理事.

列席者 中村庶務委員

### 報告

[庶務]

- 6月28日, (財)山路ふみ子自然科学振興財団から昭和47年度研究助成金と奨学賞の候補者募集.
- 7月6日, 自然災害特別研究「自然災害科学の総合的研究」代表者矢野勝正氏から第9回自然災害科学総合シンポジウム開催についての後援依頼.
- 7月13日, 文部大臣からさきに申請した定款の一部変更認可書がきた.
- 7月13日, (社)日本アイソトープ協会会長から第10回理工学における同位元素研究発表会の共同主催者として参加の依頼.
- 7月20日, 沖縄気象台長から沖縄支部規約承認申請.
- 6月22日, 本年度学会奨励金受領者選考委員の書面審査を依頼. その結果全員可.
- 6月22日, 松永賞倒補者として京都大学防災研究

1972年9月

所, 光田寧会員(研究題目, 超音波風速温度計の開発とそれによる大気乱流の研究)を推薦.

8. 6月23日, 当学会が幹事学会として開催する「第19回風に関するシンポジウム」の共催と運営委員推薦を日本建築学会ほか7学会に依頼. いづれも承諾があり, 11月22日気象庁講堂で開催することになった.

[講演企画]

7月24日~29日夏期大学受講者は57名.

[学術会議]

6月27日, 地球物理研究連絡委員会が発足. GARP小委員会は, 特別委員会のGARP部会として発足. 7月20日~21日に広島大学で日本学術会議第4部会が開かれ混層流(多層流, 不等質流, 多成分の流れの総称)研究所の設立について討議が行なわれた.

国家公務員採用試験上級(甲種)試験区分「物理」の中に「地球物理」コースを設定するよう学術会議が人事院に働きかけることを決めた.

### 議題

- 旧理事会よりの引継事項(第16期第20回常任理事会議事録参照)  
本件は新理事会で処理する.
- 1972年大気放射国際会議について  
会議の状況報告と収支報告書が提出され承認された.

(収支各 6,066,510 円)  
(うち寄付金 4,805,800 円)